

8. 今後の対応方針（原案）

（１）事業の必要性等に関する視点

首都圏中央連絡自動車道及び横浜環状道路の一部として、首都圏及び横浜市内の交通渋滞の緩和、地域拠点間の連絡強化、周辺地域の活性化を図ることが期待される。

（２）事業進捗の見込みの視点

現地測量、地質調査、設計用地説明未実施区間があり、また平成 17 年 2 月末現在、用地進捗率は約 4 割です。

工事着手は、一部区間に限られるなど、全面的な事業進捗が図られていない現状であり、当初の供用目標（平成 19 年度頃）は困難であり、平成 20 年代半ばの供用を目指す。

今後も、住民の方々への丁寧な説明が必要と考えます。

（３）コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

コスト縮減を図りつつ、沿道環境の状況及び地元等の要望を考慮に入れて、環境保全対策についても検討し、可能な限り対応していきます。

（４）対応方針（原案）

本事業は以下の努力を図りつつ継続する。

今後、環境現況調査の継続実施、環境保全対策の検討、常設相談窓口の設置などにより、住民の方々との対話を行い、合意形成が図られるよう努力します。

参考 1 (金沢～戸塚)

●他の計画における事業の位置づけ

計画名	策定年月日及び策定者	位置づけ
都市再生プロジェクト (第2次決定)	平成13年8月 都市再生本部	大都市圏における環状道路 体系の整備
神奈川力構想 ・プロジェクト51	平成16年3月 神奈川県	県土の骨格となる自動車専 用道路網の整備 都市圏の幹線道路網の整備
横浜市中期政策プラン	平成14年12月 横浜市	交通施設を街づくりや環境 に調和させながら整備
神奈川新総合計画21	平成12年3月 神奈川県	横浜環状道路、高速湾岸線、 高速磯子線等の整備促進 放射環状型の幹線道路網の 形成 地区幹線道路を整備し、高速 道路や幹線道路とともに体 系的な道路網整備を形成
ゆめはま2010プラン	平成6年12月 横浜市	放射環状型の高速道路、幹線 道路ネットワークを形成 全国を連絡する高速自動車 国道や首都圏の主要な都市 を連絡する広域的な道路の 整備

参考2 環境影響の照査について

1) 照査項目の選定

環境影響評価書の環境項目及び省令に定める標準項目により環境項目を設定し、専門家を加えた委員会によって別途検討している項目等を考慮し、以下のとおり照査対象を選定しました。

なお、下記に該当するものは、「環境影響の照査」の対象としない事としました。

- ①その影響が明らかに小さいと判断される項目
- ②選定しなかった理由に大きな変化がない項目
- ③予測条件、予測手法に変化がない項目

環境項目		照査対象	別途検討項目	照査の対象としない理由
大気汚染	二酸化窒素	○		
	浮遊粒子状物質	○		
	一酸化炭素			①
	二酸化硫黄			①
水質				②
騒音		○		
振動		○		
地盤沈下			○	
低周波空気振動		○		
電波障害				③
日照障害				③
水象				③
重要な地形及び地質				②
動・植物相	動物（重要な種及び注目すべき生息地）		○	
	植物（重要な種及び群落）		○	
地域を特徴づける生態系			○	
地域社会				③
主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観			○	
文化財				③
主要な人と自然との触れ合いの活動の場			○	

2) 環境影響評価書と今回照査の違い

環境影響評価書と今回照査の予測手法の違いをまとめると下記になります。

	環境影響評価書	今回照査
交通量	・H22推計値	・ <u>H42推計値</u>
NO2	・拡散式:ブルーム式・パフ式 ・加減速を考慮して予測	・拡散式:同左 ・加減速を考慮して予測 (排出係数、補正係数は新たに設定された値を使用)
SPM	――(予測なし)	・ <u>拡散式:ブルーム式・パフ式</u> ・ <u>インターチェンジ・ジャンクション部の加減速の影響が及ばない箇所を予測</u>
騒音	・予測値:L50(騒音レベルの中央値)	・予測値: <u>LAeq(等価騒音レベル)</u>
振動	・予測式:建設省土木研究所提案式	・予測式:同左 (係数は新たに設定された値を使用)
低周波 空気振動	・既存資料及び類似橋梁での現地調査結果による定性的予測	・ <u>「道路環境影響評価の技術手法」記載の予測式による予測</u>

3) 環境影響の照査の結果

本事業の実施に伴い周辺に与える環境影響について、現時点での最新のデータと予測手法を用いて予測・照査した結果は、以下のとおりであり、今回照査した範囲においては、それぞれの環境保全目標を満たしているものと考えています。

なお、今後とも新たな技術の進展やデータの蓄積を踏まえ、環境影響の調査検討を実施し、周辺環境の適切な保全に努めてまいります。

・二酸化窒素、浮遊粒子状物質の結果

	二酸化窒素	浮遊粒子状物質
予測結果	日平均値の年間98%値 0.042~0.052ppm	日平均値の年間2%除外値 0.079~0.080ppm
環境保全目標	0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内 またはそれ以下	0.10mg/m ³ 以下
予測の結果、環境保全目標を達成	○	○
環境保全対策の実施により環境保全目標を達成		

・騒音、振動、低周波空気振動の結果

	騒音(環境保全対策後)	振動	低周波空気振動
予測結果	(用地境界) 昼間:46~65dB 夜間:41~60dB (用地境界より20m位置) 昼間:45~65dB 夜間:41~55dB	昼間:35~50dB 夜間:34~50dB	L ₅₀ :76~79dB L _{G5} :83~85dB
環境保全目標	(用地境界) 昼間:70dB 夜間:65dB (用地境界より20m位置) 昼間:60~65dB 夜間:55~60dB	周辺住民が日常生活において支障が生じない 参考:振動規制法に基づく限度 昼間:65~70dB 昼間:60~65dB	住民の日常生活に著しい影響が生じない 参考:L ₅₀ :90dB L _{G5} :100dB
予測の結果、環境保全目標を達成		○	○
環境保全対策の実施により環境保全目標を達成	○		